

「京都市移住・定住応援団」との公民連携の推進 ～地域特性を踏まえた移住・定住促進トライアル事業～について

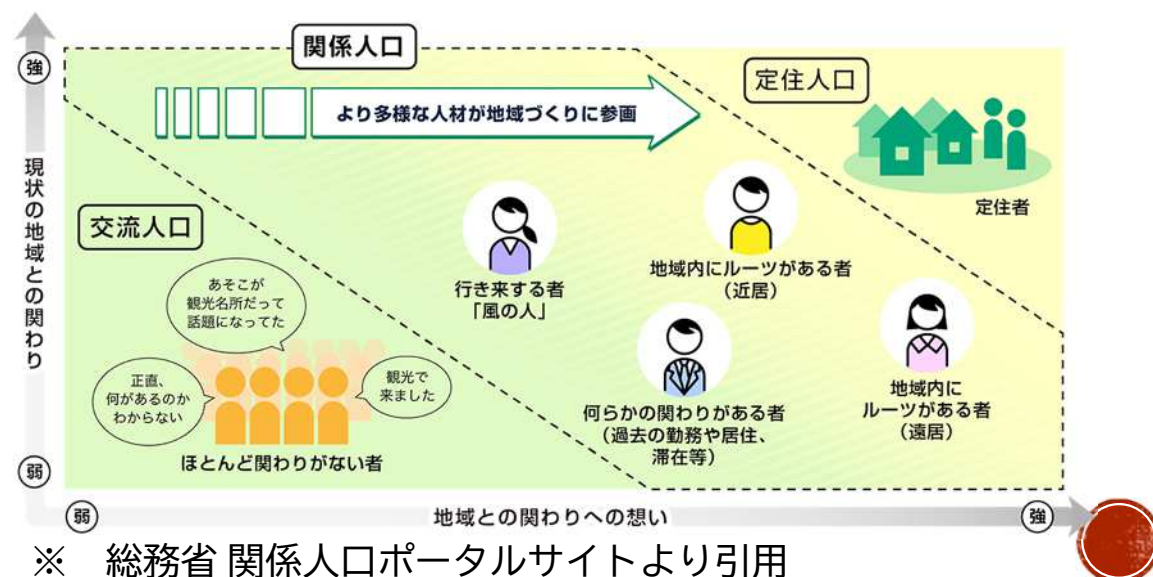
<事業目的>

左京区としては、人口維持を目指し、関係人口（※下図参照）増加の取組を創出することで、定住移住促進につなげる。

- ① 地域の維持・活性化について取り組む企業を増やす（移住定住応援団拡大）
- ② まちづくりに関わる人を増やし、「このまちで良い」ではなく「このまちが良い」と思う方を増やす

<事業の流れ>

- ① 課題検討
ラウンドテーブル（※）や現地視察等
※ 企業、団体、大学、区役所等
- ② 事業検討
民間主導で自走化することを想定して検討
- ③ 実証実験



統計資料

参考資料

左京区の人口等の推移

	平成31年4月	令和2年4月	令和3年4月	令和4年4月	令和5年4月	令和6年4月
人 口	166,984	166,571	164,874	163,605	163,956	163,169
世 帯 数	84,574	85,056	84,656	85,209	86,683	87,094
世帯当たり人口	1.97	1.96	1.95	1.92	1.89	1.87

左京区の出生数、合計特殊出生率、転入者数、転出者数

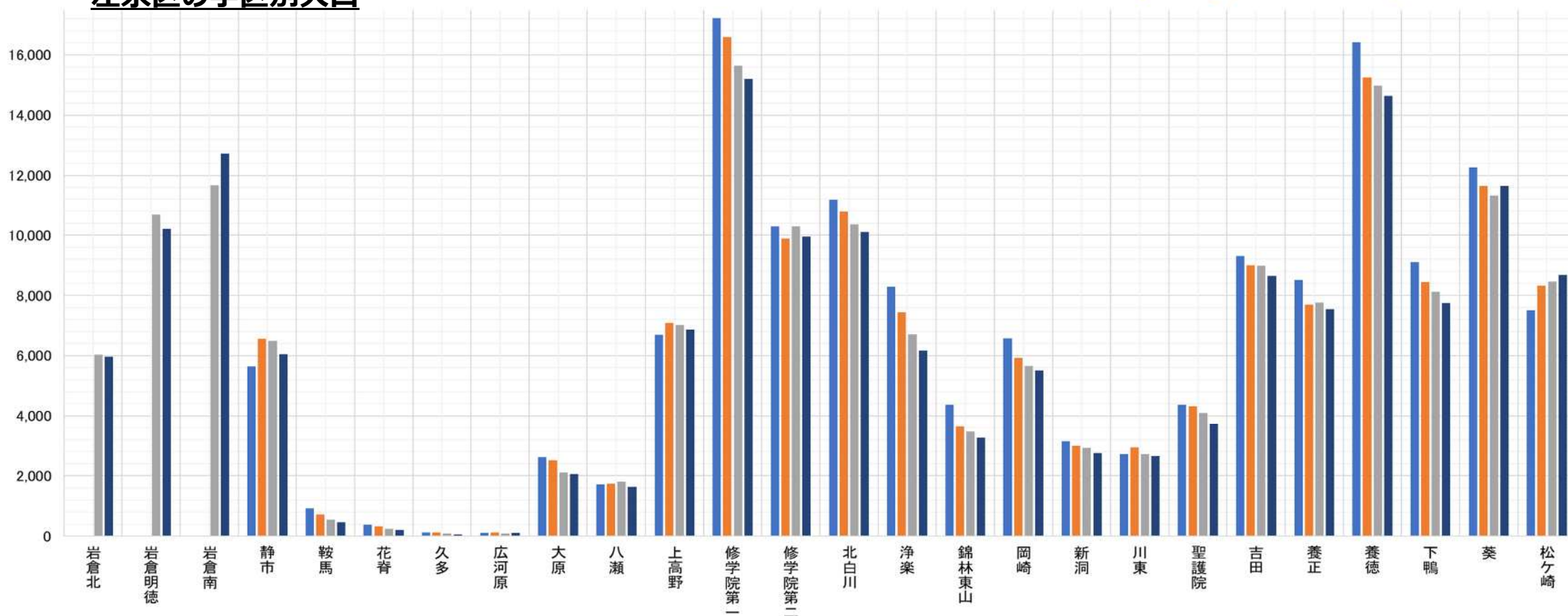
	出生数	出生率	転入者数（うち市外から）	転出者数（うち市外へ）
令和元年	953人	1.15	13,210人（7,343人）	12,554人（6,247人）
令和2年	907人	1.16	11,685人（5,959人）	12,352人（6,040人）
令和3年	906人	1.2	11,243人（5,472人）	11,339人（5,522人）
令和4年	808人	1.11	13,127人（7,565人）	11,631人（5,766人）
令和5年	773人	－	12,699人（7,390人）	12,014人（6,428人）

- ・左京区の人口は緩やかに減少する一方、世帯数が増加し、単身世帯化が進展。
- ・出生数はこの5年で激減。コロナの期間中の転出超過は現在、転入超過に逆転したものの、市外転出者が増加傾向。

左京区の学区別人口

学区別人口の推移

■ 7年 ■ 17年 ■ 27年 ■ R5年



	左京区	岩倉北	岩倉明德	岩倉南	静市	鞍馬	花脊	久多	広河原	大原	八瀬	上高野	修学院第一	修学院第二	北白川	浄楽	錦林東山	岡崎	新洞	川東	聖護院	吉田	養正	養徳	下鴨	葵	松ヶ崎
7年	172,030	22,527 ※ 1			5,634	917	385	117	105	2,626	1,726	6,698	17,217	10,299	11,176	8,294	4,363	6,571	3,152	2,729	4,373	9,313	8,516	16,417	9,101	12,265	7,509
17年	169,587	25,483 ※ 1			6,563	712	332	117	116	2,526	1,739	7,093	16,597	9,884	10,779	7,434	3,642	5,936	3,000	2,935	4,318	9,009	7,694	15,252	8,445	11,659	8,322
27年	168,266	6,033	10,692	11,671	6,488	548	244	84	97	2,110	1,801	7,014	15,642	10,291	10,364	6,708	3,465	5,659	2,917	2,716	4,094	8,983	7,758	14,988	8,122	11,322	8,455
R5年	164,550	5,961	10,202	12,720	6,045	461	211	51	106	2,064	1,631	6,859	15,197	9,947	10,105	6,166	3,263	5,509	2,763	2,654	3,719	8,653	7,551	14,637	7,740	11,659	8,676
27→R5	97.8%	98.8%	95.4%	109.0%	93.2%	84.1%	86.5%	60.7%	109.3%	97.8%	90.6%	97.8%	97.2%	96.7%	97.5%	91.9%	94.2%	97.3%	94.7%	97.7%	90.8%	96.3%	97.3%	97.7%	95.3%	103.0%	102.6%

- ・平成27年と令和5年を比べて増加しているのは、4統計区（岩倉南、広河原、葵、松ヶ崎）
- ・減少率が最も大きいのは、久多（△39.3%）、次いで鞍馬（△15.9%）、花脊（△13.5%）と続く

*平成7年17年27年は国勢調査、
令和5年は推計人口（令和5年10月1日時点）

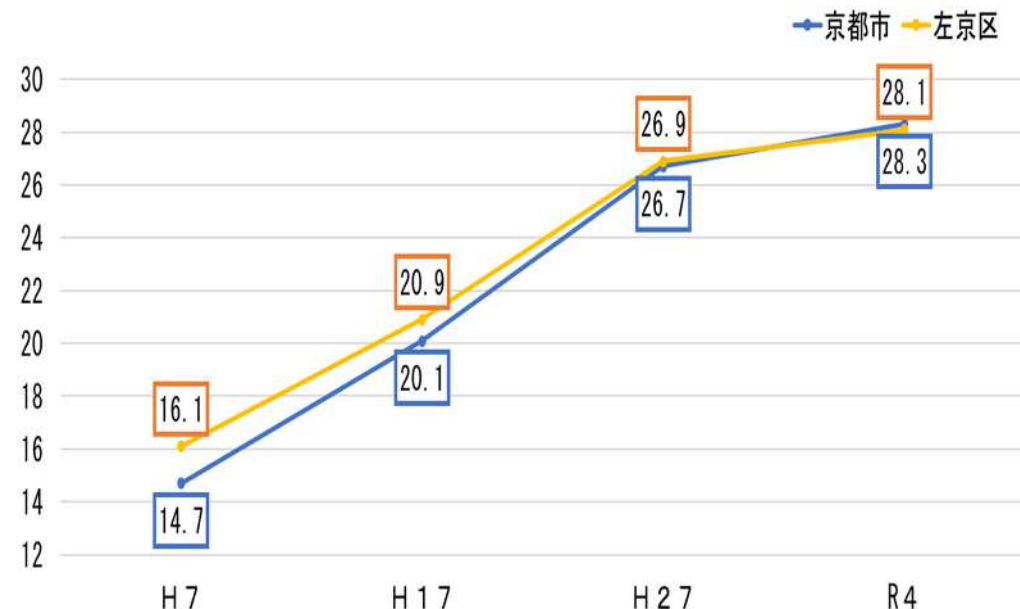
出生率推移



* 各年中の出生数と各年10月1日時点の住民基本台帳人口を元に算出した結果
(京都市統計情報では、令和4年度のデータが最新)

- ・ 左京区の出生率は、平成17年以降上昇傾向であったが、令和4年度では減少に転じている。
- ・ 京都市の出生率は、平成17年以降は上昇傾向であるが、令和4年度では減少に転じている。
- ・ 左京区の出生率は、京都市の出生率に比べ低くなっている。

高齢化率（65歳以上の人口割合）



* 平成7年～27年は国勢調査、令和4年は推計人口
年齢別人口は毎年10月1日現在で推計のため令和5年度のデータは無し。

- ・ 左京区、京都市ともに、増加しているが、平成27年からは、緩やかに増加している。
- ・ 左京区と京都市に、ほぼ差はない。

北部山間地域の人口の推移

学区名	面積 (km ²)	世帯数			人口			年齢3区分別人口比（％）					
		H27.10	R2.10	R6.4	H27.10	R2.10	R6.4	R2.10国調			R6.4住基人口		
								15歳未満 (人)	15～64歳 (人)	65歳以上 (人)	15歳未満 (人)	15～64歳 (人)	65歳以上 (人)
花脊・別所	39.277	107	107	120	244	229	211	8.3	33.2	58.5	8.5	35.1	56.4
								19	(76)	(134)	(18)	(74)	(119)
広河原	26.252	41	39	35	97	112	112	27.6	43.8	28.6	24.1	51.8	24.1
								(31)	(49)	(32)	(27)	(58)	(27)
久多	34.213	41	35	38	84	70	61	5.7	45.7	47.1	1.6	45.9	52.5
								(4)	(32)	(33)	(1)	(28)	(32)
北部地域 (花脊峠以北)	99.742	189	181	193	425	411	384	13.1	38.2	48.4	12	41.7	46.3
								(54)	(157)	(199)	(46)	(160)	(178)

- ・全体として人口減少傾向にあるが、特にコロナ後の人口減少幅が大きい。
- ・若年人口の割合が高い広河原でも子どもの数が減少傾向にあり、久多では15歳未満が1名にまで減少。